

令和元年度鳥取大学

地域課題 研究成果報告会 in 米子

テーマ：鳥取の隠れた資源の活用

日時 令和元年
10月29日 火
16:30~18:00

会場 米子市立図書館
2階
多目的研修室

令和元年度 事業報告

鳥取大学では、長年にわたって進めてきた地域連携の実績を踏まえつつ、地域の創生に貢献することを目的として「地域価値創造研究教育推進プログラム」等の地域課題をテーマとした研究に取り組んでいます。
上記について、平成30年度に実施した事業の研究成果をみなさまにご紹介します。

16:30~16:40

開会挨拶

16:40~17:15

発表①

「未発掘地域資源であるローカル酵母の活用による 地域産業創造・地域活性化プロジェクト」

連合農学研究科 教授 児玉 基一郎

酵母は、発酵食品・飲料の製造に用いられる、われわれにとって最も身近な有用微生物であり、風味や香りの面で様々な付加価値を発酵生産物に付与します。また近年では、一般的な市販酵母とは異なる、いわゆる“天然(野生)酵母”を、製パンや酒類醸造に活用する例が増加しています。

本事業では、二十世紀梨など特徴的な地域資源からユニークな“ローカル酵母”を発掘・開拓し、地元自治体、地域グループとの密な連携により、オンリーワンの新規商品開発・産業創造による新たな地域価値創造を目指しました。

連携先：(株)石見麦酒、(株)AKARI BREWING、
(株)ゼンワークス(吉備土手下麦酒)、パンー心庵ほか



さくら酵母によるサワービール
ラカンセアサワーエール L08



袋川土手桜並木の
ソメイヨシノ花



ソメイヨシノ花から分離
したラカンセア酵母

17:15~17:50

発表②

「地域の一次産業基盤の強化のための未利用生物資源活用技術の確立」

工学部 教授 大城 隆

社会経済の持続的発展を図るためには、天然資源を上手に利用していく必要があります。また、県内には、廃棄、あるいは利用されていない様々な未利用生物資源が大量に発生しており、これらが水産業、水産加工業、農林業に携わる方々にとっての大きな問題と認識されています。

本取組では、海洋生物や駆除獣等の未利用生物資源を大学側が持ち帰り、高付加価値機能性物質へ変換する資源化技術を開発する方向で教育研究を進め、プロジェクトによっては、新たな雇用を生み出すことを目的として実施しました。

連携先：鳥取県栽培漁業センター、猪鹿庵ほか



コンドロイチン硫酸を多く含む鹿の角(左)と
フコイダンを多く含むアカモク(右)



17:50~18:00

地域価値創造研究教育推進プログラムの説明

鳥取大学地域価値創造研究教育機構副機構長 大場尚志

申込締切

10月25日 金

お申込み方法

メールに「お名前」、「ご所属名」をご記入の上、下記メールアドレスまで送信してください。
koken@ml.adm.tottori-u.ac.jp

お問い合わせ先

鳥取大学 地域価値創造研究教育機構
〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101番地 TEL:0857-31-6777(担当:大呂)